

## 第560回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和7年6月4日（水）午前11：00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名  
○出席委員数 8名  
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）  
委員長 林 新一郎  
副委員長 井上 裕子  
委員 浅井 隆彦  
委員 笹本 正治  
委員 武重 正史  
委員 中谷富美子  
委員 中山 潔  
委員 南澤 光弥  
○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）  
○放送事業者側出席者名  
外山 衆司 （代表取締役社長）  
船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）  
西條 彰浩 （取締役 報道制作担当）  
浅輪 清 （編成業務局長  
兼 考査部長 兼 放送番組審議会事務局長）  
北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）  
伊藤 晴彦 （報道制作局長）  
宮本 利之 （報道制作局次長）  
飛田 修一 （制作部ディレクター）

### 4. 議題

#### （1）番組審議

『 信州から宇宙へ！ 夢と挑戦 』

令和7年5月4日（日）午後4時00分～午後4時30分放送

(2) 視聴者対応報告（令和7年5月分）

(3) その他

## 5. 議事概要

### (1) 番組審議

- ・長野県の良いところの一つとして宇宙県と呼ばれていることが、非常に分かりやすく紹介した。
- ・冒頭に金井宜茂宇宙飛行士の講演が紹介されて、そこに参加している子どもたちがキラキラした目で見ているというのが、すごく番組に対しての期待感を視聴者に持たせるイメージがあった。
- ・JAXAの実際に宇宙へ行かれた方の講演会を熱い眼差しで聞き入る子どもたちの姿が、とてもうまく捉えられていて臨場感があった。
- ・子どもたちの夢や希望を育むという意味でこの番組というのは非常に良かった。
- ・他の地域にはない地域活性化を考えた時に「長野県が宇宙県」は、大きな材料になると思って、大人もこの番組から多くの希望を得たのではないか。
- ・平野大地だいちさんがやっていることを本当にリアルで見せていただいて、カメラが動いているところとか、実際のものとか、なかなか新聞の取材だけでは分からないところが映像になって見せていただいたことは、とても分かりやすく勉強になった。
- ・財部凌君たからべりょうのすごい情熱、行動力に感服。それを支えている若宮崇令わかみやたかのりさん、信大の三澤透みさわとおる教授が教えてあげているという感じではなくて、同じ研究者という目線で一緒に付き合って共に研究を深めているというような感覚があって、とても好感を持って見た。
- ・財部さんたからべのような子どもが出てくる背景には、長野県が天文学を学ぶにはすごく

恵まれた環境にあるのだなとこの番組を見て思った。

- ・長野県ならではの観察会が地元にあたりとか、色々な拠点があたりで、その中で財部<sup>たからべりょう</sup>凌さんの興味を一生懸命引き出しているところがすごいなと思った。
- ・小型ロボットはウミガメを模倣しておもちゃの技術を応用してその動きを再現するのは、素人から見ても非常に面白いなと思ったし、はやぶさの最終カプセルの話というのは、子供も大人も興味深く聞いたのではないかな。
- ・宇宙の道を目指す子どもたちとか、最先端で宇宙に関わっている研究者たちに共通する情熱の根本が、信州の地域性と恵まれた環境にあるということをしごく分かりやすく紹介してくれた番組だった。
- ・自分の住んでいる場所から空を見上げて、その空から宇宙空間というちょっとSFでもないが、科学的なものに発展していくというのが、なんか長野県で宇宙をつなぐ希望に満ちた番組だなと思った。
- ・宇宙に行った人、それから宇宙に興味のある人、それと宇宙探索に関わっている人、それぞれ4人にフォーカスをしてその描写がとても丁寧だった。
- ・5月4日、みどりの日の日曜日、夕方4時から放送ということで、子どもたちに是非見てもらいたいというターゲットは、はっきりとして意図が見えた。
- ・天文施設が多い長野県というのは標高の高さと星がよく見える空気の綺麗さという環境があるからではないかなと思って、長野県の誇りでもあるなということをし再認識した。
- ・「長野県は宇宙県」ということのなぜかというのをもうちょっと画像でもいい、歴史的にもなぜそういう風に言われるのかというところが、もうちょっと入ると、なるほどという風に思うことが多かった。
- ・宇宙県というからには、全国の施設のうち何パーセントが集中しているとか、もうちょっと踏み込んだ説明があればいい。
- ・長野県の星の美しさみたいなことに惹かれて、宇宙の研究を目指す人がいっぱい

いるみたいなことが、もうちょっと映像で補足していただけると、深みが出た。

- ・天文台みたいな施設が、どういうところにあるのかわかるように県の地図の中にプロットして落とすとか、例えばこんなところにこんなプラネタリウムがありますといった情報があると、番組を見た子どもたちが、興味を持って次の行動を起こせるように繋がる。
- ・JAXAの平野<sup>だいち</sup>大地さんと澤田<sup>ひろたか</sup>弘崇さんについて、子どもの頃から宇宙に興味があったとか、どうやったらJAXAに入れるのだろうかとか、就職できるのかとか、JAXAにはどの位の人数が働いているのかとか、そういうことも紹介いただけたら、未来のJAXAに入りたいという子どもたちに夢と希望を与える人材の発掘育成につながるのではなかったかと思った。
- ・岡谷のある企業はスペースシャトルの重要部品の表面処理をやった経験があり、伊那谷から飯田にかけて航空宇宙産業がかなりあるので、なお宇宙県というテーマで、これで終わらずに是非とも立体的に長野県の宇宙に対する関わりを発掘していただければありがたい。
- ・地球上の発展だとか、人工衛星が宇宙にあるのだということを言いながら私たちはずっと戦争を繰り返していることに対して何か、「技術の進歩と人間の進歩の差」みたいなものをどこかへちょっと入れていただけると、私たちが一つの宇宙という広い視野からもう一度自分たちを見直す契機になってくるのではないか。

## (2) 視聴者対応報告（令和7年5月分）

資料に基づき、令和7年5月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

## (3) その他

配布資料

- ・第559回番組審議会（令和7年5月）議事録

・視聴者対応報告資料（令和7年5月分）

・モニターレポート

『 信州から宇宙へ！ 夢と挑戦 』

（令和7年5月4日（日）午後4時00分～午後4時30分）

・BPO報告（NO. 277）

・民間放送ニューズレター（第2239号）

以 上